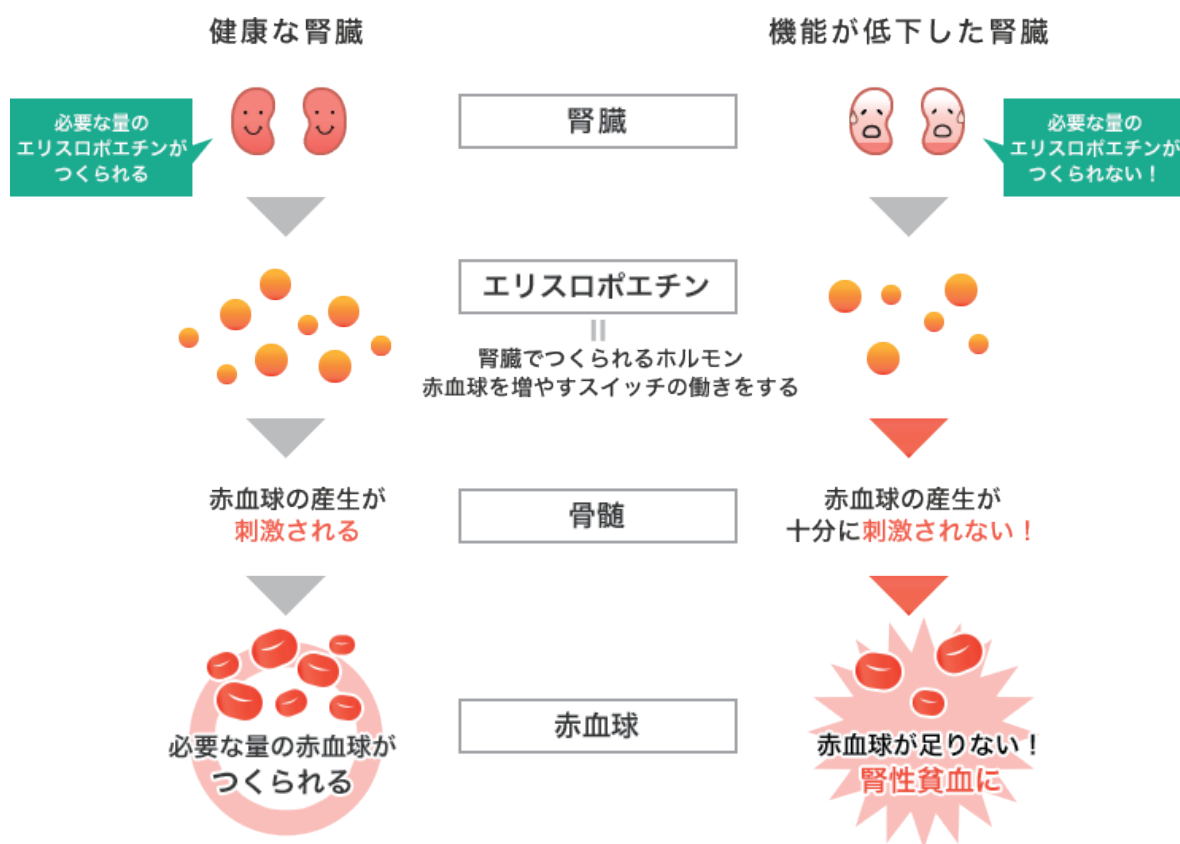


■特集 腎性貧血とは?

# 腎臓機能低下と貧血

腎臓はさまざまなホルモンを分泌しています。そのひとつに赤血球をつくるはたらきを促進するエリスロポエチンというホルモンがあります。腎臓のはたらきが低下すると腎臓からのエリスロポエチンの分泌が減り、赤血球をつくる能力が低下することで貧血になります。

このようにしておこる貧血を「**腎性貧血**」といいます。



## 腎性貧血の症状

赤血球は体のすみずみにまで酸素をはこぶ役割を持っています。

赤血球が減り「腎性貧血」になると、**疲れやすい、動悸・息切れ、めまい**などの症状があらわれます。ところが、貧血は徐々に進行するので、体がその症状に慣れてしまって気がつかないケースがあり、注意が必要です。

また、貧血状態では全身の酸素不足が起こります。これをカバーするために心臓には常に負担がかかっています。

腎臓の機能が低下している慢性腎臓病 (CKD) 患者さんは、定期検査で行われる血液検査の**ヘモグロビン値**で貧血かどうか分かりますので、貧血の症状が悪化する前に適切な治療をすることが大切です。

貧血には、体の鉄が不足してヘモグロビンの産生が不十分になることでおこる「**鉄欠乏性貧血**」がありますが、「**腎性貧血**」とは原因が異なり、治療方法も違います。よく貧血は鉄を補給すればよいといわれますが、腎性貧血は鉄剤だけを補給しても改善しにくいと考えられています。

## ■特集 腎性貧血とは?

# 腎性貧血の治療について

## 腎性貧血の治療

腎性貧血には、エリスロポエチンの分泌不足を補う注射薬 (ESA) や、体内のエリスロポエチン産生を促す内服薬による治療が行われます。また、あわせて食事療法や、鉄剤<sup>\*1</sup>の投与も行われます。

\*1 本邦における鉄剤の効能又は効果は、鉄欠乏性貧血です

## 腎性貧血の治療目標

保存期慢性腎臓病 (CKD) 患者さんのESA治療におけるHb目標値は13g/dL以上を目指さないことが推奨されています。<sup>\*2</sup> また、目標Hbの下限値は10g/dLを目安として、個々の患者さんのQOL (生活の質) やその背景因子、病態に応じて判断することが提案されています。<sup>\*2</sup>

\*2 一般社団法人 日本腎臓学会 編. エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023 : 97, 東京医学社

## 腎性貧血治療の重要性

腎性貧血になると、疲れやすいなど日常生活が妨げられ、さらに貧血が強いほど末期腎不全になる割合が高いといわれています。

腎性貧血を治療することで、疲れやすい、動悸・息切れといった症状が改善するほか、心臓のはたらきも改善し、早い時期から貧血治療をすることによりCKDの進行を抑えることが期待できるなどの報告<sup>\*3</sup>もあります。

\*3 Gouva C, et al. :Kidney Int 66:753-760, 2004

